
平成29年度 事業計画書



平成29年4月1日より平成30年3月31日まで

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

平成29年度事業計画策定にあたって

1981年（昭和56年）の国際障害者年を契機に翌年8月に設立された当基金も、設立より35年目を迎えます。

設立当時より、永年の月日を経てきた今も当基金が目指してきたことは、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現であり、様々な視点で障害のある人々への課題を考える機会をつくることを目的とした事業への取り組みを、引き続き展開していきたいと考えております。

ふれあいの広場事業は、当基金が設立以来、取り組んでいる事業です。スポーツや音楽等を通じて、障害のあるなしに関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを創造し、開催してまいりました。

「ふれあいのスポーツ広場」は、平成28年度は過去最高となる全国41会場の開催となり、初めて新潟県において実施いたしました。これも自動車総連、各地方協議会のご協力のおかげと感謝しております。

日本福祉大学教授の藤田紀昭先生が監修するプログラムも、昨年度新たな競技がまた一つ生まれ、障害の有無にかかわらず楽しむことのできる競技の幅が広がりました。

今年度も、41会場の開催を目指すとともに、さらに活動の輪を広げていくべく努力して参ります。プログラムの一部見直しやPR活動も進め開催してまいります。

「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ」は、平成27年度に本格的に取組をはじめ、北海道及び福島県内において、多くの子どもたちに参加をいただき開催いたしました。

今年度からは、平成28年4月の熊本地震の被災県である、熊本県内の開催を計画し、言葉を越えたコミュニケーションの手法を知っていただけるよう、努力して参ります。

ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップは、東日本大震災の被災県である、福島、宮城での開催を積み重ね、障害の有無に関わらず楽しむことのできるユニバーサルなスポーツ競技の開発のため、日本福祉大学教授、藤田紀昭先生の監修のもと、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. 日本福祉大学のみなさんに検討いただきました。今年度については、福島県において実施し、連携の輪を広げて参ります。

昨今の低金利につき、年々基本財産の運用が厳しい状況となり、法人の運営について困難な状況が増しております。賛助会員や寄付者の募集活動について積極的に取り組むため、ニュースレターおよびホームページの内容についても吟味をして参ります。

多くの皆様のご理解とご支援のもと本年度事業が展開できますよう、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成29年4月
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

1. ふれあいの広場事業

(1) ふれあいのスポーツ広場の実施

障害のあるなしに関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。

平成4年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。昨年度には開催地域も全国41会場までに拡大し、初めて新潟県において開催することができました。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、ユニバーサルスポーツをキーワードに、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造し、実施しております。

現在、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを提供いただき、実施すると共に、公益社団法人日本エアロビック連盟、日本障害者フライングディスク連盟、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. のみなさまに、ユニバーサルなプログラムを提供いただいております。

多くの関係者、ボランティアの皆様に支えられ、今年度においては下記の都道府県において開催を計画しております。

実施時期 平成29年4月～平成30年3月

開催地域 北海道、青森、岩手、秋田、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、新潟、富山、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

開催数 全国41会場（予定）

共催 全日本自動車産業労働組合総連合会

後援 内閣府、スポーツ庁、開催都市、開催都市教育委員会等

協力団体 公益社団法人日本エアロビック連盟

日本障害者フライングディスク連盟

日本福祉大学スポーツ科学部

仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.



ホール・イン・ワン／28年度東温大会

プログラム内容

日本福祉大学教授 藤田紀昭先生の監修の元、障害の有無に関わらず、誰もが共に参加し楽しむことのできる競技として、開発された競技を中心に実施しています。午後には、エアロビック、フライングディスクなど、ユニバーサルな競技活動を行っている障害のある方に関わるスポーツ団体や、日本福祉大学、仙台大学の学生のみなさんが、それぞれに考案したユニバーサルな競技を実施し、楽しんでいただいております。

競技内容（例）

☆ロープ送り

2列縦隊で座った列の先頭から、最後尾に向かってロープを送っていき、最後尾でUターンして最前列へ。ロープの最後が最前列の競技者にわたったら、ぱちと交換。太鼓を打ち鳴らす競技。

☆風船バレー

2チームに分かれ人の列で区切りを作る「人間ネット」を中心線とします。各チーム30～50個の風船を持ちスタート。自陣から風船の個数を減らしたチームが勝ち。



☆ホールインワン

スタートの音楽の合図が鳴ったら、パラシュートを上下を繰り返す。

指導者の合図でパラシュートを右に回し、その後ボールを入れる。全員で協力してパ

ラシュートの中央の穴にボールを落とす。ボールを穴に落とした後、早く座った方が勝ち。



☆みんなでストレッチ

運動不足になりがちな施設職員、利用者を対象に、施設でも行えるよう、藤田先生が考案したストレッチ運動。

☆じゃんけんダンス

リズムカルな音楽に乗せ、二人一組で行うダンス。最後には二重円をつくり、じゃんけんにて洗濯ばさみを取り合うゲームを行う。



☆ジャンボールリレー

大きな軽いボールを四人一組でネットを利用してリレー。仙台大学障害者スポーツサポート研究部 C0-Act. 考案。

☆巨大オセロ

床面に紅白二面のディスクを置き、自軍の色に替えていき、多い方が勝ち。仙台大学障害者スポーツサポート研究部 C0-Act. 考案。



(2) ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

平成28年度には、福島及び宮城県内の特別支援学校、障害者施設の子どもたち、利用者を対象として実施し、ご好評をいただきました。

平成29年度については、平成28年4月の熊本地震の被災地である熊本県内の特別支援学校、障害者施設を中心とした子どもたちに体験いただきながら、指導者に対して理解を広げる活動を行って参ります。

実施時期：平成29年9月

対象者：特別支援学校の子どもたち、教職員、ボランティア等

ファシリテーター：

庄崎 隆志

(office 風の器主宰・俳優・演出家)

メイミ

(漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長・港区登録手話通訳者)



プログラム概要※昨年度一例

時間	プログラム	写真
13:55～	挨拶 (福) あぶくま福祉会だての郷 半澤施設長 日産労連 高木副会長 ゆうらいふ21 山口専務理事 ワークショップ開始 ハイタッチ	
14:10～	早着替え (のれんで変身) ボディーパーカッション	
14:15～	ミラーリング	
14:20～	汽車ごっこ (輪になって)	
14:30～	早着替え (のれんで変身) 第二弾	
14:40～ 15:00	即興パフォーマンス 記念品贈呈 ワークショップ終了 【参加者合計44名】	

2. 開発、普及及び育成事業

(1) ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップの実施



当基金が設立以来、実施を重ね開催規模を広げている「ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」事業では、多くの障害者スポーツに関わる指導者の助言や協力のもと、従来にない新たな競技を開発し、プログラムとして提供してまいりました。日本福祉大学スポーツ科学部教授である藤田紀昭先生が、学生のみさんと協議を重ね開発してきたプログラムです。平成23年度からは、仙台大学障害者スポーツサポート研究部「Co-Act」のみさんも競技開発に加わり、プログラムの内容も充実して参りました。

過去3年にわたり、ユニバーサルなスポーツ競技の新たなプログラムを開発することを目的として、東日本大震災の被災地である、福島県、宮城県内及び昨年度は日本福祉大学の皆様にもご協力を頂き、愛知県内においてワークショップを行い、屋外活動が制限されている地域において、室内で楽しむことのできる競技開発をテーマに開催いたしました。今年度は、2回目となる福島県内において実施し、障害のある子どもとご家族を対象として、スポーツを楽しむことのできるプログラムづくりをテーマ

に開催いたします。

実施時期：平成29年9月4日（月）～9月6日（水）の3日間

会場：福島県内の特別支援学校等

対象者：教育・福祉・体育の専門職員及びその学習をしている学生等

講師：藤田 紀昭（日本福祉大学スポーツ科学部教授）

佐藤 一樹（仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.）

(2) 各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。

刊行時期：平成30年3月

発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。



(3) ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に務めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年4回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めています。

発行月：6月、9月、12月、3月

発行数：各2,000部。当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

内容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等



3. 調査研究事業

(1) ユニバーサルスポーツプログラム研究会の実施

新たな取組として、「ふれあいのスポーツ広場」で実施している、ユニバーサルなスポーツプログラムをより深化させ、同様な取組を行っている様々な立場の指導者の相互研究の場として研究会を組織化し、プログラムづくりと指導者交流の場として位置づけます。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座 長：藤田 紀昭（日本福祉大学スポーツ科学部教授）

構 成 員：障害者スポーツ等の指導者、福祉関係者等

内 容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできるスポーツプログラムの
先行

事例の調査と新規プログラムの創造

報 告 書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

(2) ユニバーサル音楽ワークショップ研究会の実施

「ユニバーサル音楽ワークショップ」で生まれた課題や、新たな手法を研究し、ワークショップという手法の有効性を確認しながら、新たなプログラムの枠組みを検討していくために、研究会を組織し、専門家を交えて検討してまいります。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座 長：星山 麻木（明星大学教育学部教授）

構 成 員：教職員、学校教育、社会教育等の指導者、福祉関係者等

開 催 数：年3回程度

内 容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできる音楽ワークショッププ
ログ

ラムの先行事例の調査と新規プログラムの創造

報 告 書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。